

「青洲翁記念室」とは

栄一の死去後、現在の北区飛鳥山公園内にある敷地と建物が渋沢記念財団竜門社に寄贈され、「渋沢青洲翁記念実業博物館」(青洲は栄一の雅号)の建設を決議する。

そこで敬三は、「折角お爺さんの為に財界の人達が御考え下さっていることは大変有難いことであるが、それならばそれを敷衍した経済史的な博物館を、渋沢家も御手伝してつくりたい」として、「渋沢青洲翁記念室」「近世経済史展観室」「肖像室」からなる「青洲翁記念日本実業博物館」(近世経済史博物館、のち実博)構想を提唱し、栄一の遺品を中心とした「渋沢青洲翁記念室」のための資料収集にあたった。

祖父栄一の傍らにある時、その後ろ姿は、「しっかりとした偉人というよりは、むしろ侘びしい一個の郷土血洗島の農夫の姿」であったといい、その「農夫」の姿を、孫である自身に投影したのかも知れない。

この展示では、

「一見つまらぬ様な事でも、ありのまゝに出来得る限り集めて置かねばならぬ」

として遺されたコレクションを通じて、敬三が描こうとした栄一の実像に少しでも迫っていただければと願う。





わが国初の渡米実業団

渡米実業団は、日本各地の実業家たちに米国社会の本質を理解してもらうことを目的に組織された。

栄一はその団長として1909(明治42)年7月～同年12月中旬の間の旅程で米国の主要都市を訪問する。訪米を歓迎して贈られたたくさんの記念章は額に納められ、その裏面には1939(大正2)年のニューヨーク万博展示品のシールが貼られている。万博へ出展されたと、推測できる。

帰国の約半年後に出版された『記念写真帖』には、団員の肖像写真や参加当時の所属・役職が記載されており、渡米実業団の組織構成が確認できる。日米摩擦が表面化してきた時代、新たな時代を切り開こうとする団員達は、栄一の次代のフロントランナーであった。

帰国後の栄一は、多くの団体に招かれて米国視察の印象を「アメリカから持ち帰った玉手箱」と称して、講演している。『渋沢栄一 日本を創った実業人』(東京商工会議所偏、2008年)が出版され、エピソードを交えつつも詳細な記録としてまとめられた。



啓開を牽引す

生涯を通じ日本の物流の発展に寄与した栄一は、1867（慶応3）年の欧州歴訪の際、大量輸送網の整備こそが経済隆興の要であることを痛感した。

展示資料には、再年帝国飛行協会々員章や記章が残されている。帝国飛行協会は、大正2（1913）年、民間主導による航空振興を目的として設立し、航空思想普及のため、栄一も評議員・顧問として長く在籍し活動を行った。

鉄道分野では、三重県内の津と伊勢神宮のある山田（現在の伊勢市）を結ぶ参宮鉄道（現：JR東海紀伊本線・参宮線）の開通に発起人・相談役として尽力した。その起工式と落成式で配布された記念品は、一つの箱に納められ、建設に携わった主任技師・落成日の銘が記されている。

さらに鉄道の発展を促進する目的で設立された団体である帝国鉄道協会は、官営鉄道・民営鉄道の経営者、職員により構成され、遺品として残された会員章の木箱には栄一の会員番号と思われる2260が記されている。

1906（明治39）年、南満州鉄道（株）を設立し、栄一は設立委員・定款調査特別委員長を務めた。翌年営業を開始している南満州鉄道（株）記念の鋳物製「鉄道模型」が遺されている。





『渋沢栄一伝記資料』

『渋沢栄一伝記資料』は、渋沢栄一伝記資料刊行会により出版された資料集であり、全58巻、別巻全10巻にも及ぶ、栄一の伝記である。栄一の伝記は多くの人によって書かれているが、事績・人格・思想を観察し、叙述し、論評する伝記が数多く書かれても、それらが必ずしも正確さや詳細さにおいて十分でない、との認識から、伝記を書くための資料を収集し、編纂したものである。

1932(昭和7)年から始まった編纂作業は、1936(昭和11)年に編纂主任に土屋喬雄を迎えることで本格的に動き出し、第1巻は1944(昭和19)年に岩波書店(竜門社編)から刊行されたが、時局の混乱から作業は一時中断を余儀なくされ、資料は第一銀行の金庫に保管され、終戦を迎えた。

1954(昭和29)年2月、再度『渋沢栄一伝記資料』を編纂するため渋沢栄一伝記資料刊行会が組織され、昭和40(1965)年に全58巻の刊行を終了、続いて別巻10巻が渋沢青淵記念財団竜門社より刊行され、約40年の歳月を要し、昭和46(1971)年に全ての刊行が完了した。



洪澤家一傳記資料 洪澤家遺囑書財密庫門社 編
洪澤家一傳記資料刊行會發行 (68冊)







「竜門社」とは — 語り記録された栄一の実想 —

竜門社とは、栄一を慕う者が集まり、各々が社会の中で実践を重ねながら、その意見交換を行い、互いに研鑽していく場として1886(明治19)年に発足した団体である。

1907(明治40)年には、その社員数が789名となり、栄一の助言から1909年には、組織変更を行い、栄一の唱導する経済道徳思想に基づき、商工業者の知識を開発するだけでなく、その道徳を進め、人格を高尚に資することを目指す組織となり、1924(大正13)年には財団法人化した。

栄一の没後、記念事業を考えていた敬三は、1937(昭和12)年、青淵翁記念日本実業博物館を計画し、その計画案は竜門社によって正式に決定され、竜門社を通じても関係資料が積極的に収集された。2003(平成15)年には、渋沢栄一記念財団と名称変更し、さらに2010(平成22)年に公益財団法人となった。



現在、1982(昭和57)年に開館した渋沢史料館、研究部、実業史研究情報センターの三部門で、栄一の精神や事績を広く伝える活動を続けている。





渋沢史料館＝もう一つの「青淵翁記念室」

渋沢史料館は、近代日本経済社会の基礎を築いた渋沢栄一が、常に主張し、実践していた「道徳経済合一主義」に基づき、経済道義を高揚することを目的とした「渋沢青淵記念財団竜門社(現:公益財団法人渋沢栄一記念財団)」の附属施設として、1982(昭和57)年に設立した。

渋沢栄一の旧邸「暖依村荘」跡(現:東京都北区飛鳥山公園の一部)に設立された渋沢史料館は、大正期の2つの建物「晩香廬」と「青淵文庫」(ともに国指定重要文化財)を施設として開館し、1998(平成10)年に展示を行うための本館を増設した。そこでは、『渋沢栄一伝記資料』の編纂・刊行によって収集された資料を収蔵の核とし、生涯に約500の企業と約600の社会公共事業に尽力した栄一の生涯・業績・思想を展示している。

渋沢栄一記念財団では『渋沢栄一を知る事典』を刊行し、栄一の91年の長い人生を通じて、様々な分野において、尽力した生涯が網羅的に解説されており、栄一の思想や業績を現代に伝えている。

渋沢栄一記念財団 実業史研究情報センターと

渋沢敬三没後50年の記念事業

2003年11月に設置された実業史研究情報センターは、青淵翁記念日本実業史博物館構想を現代的な形で実現することを目的とし、豊富な参照手段を備えたデジタル・ライブラリーの構築を目指した活動を行っている。

渋沢敬三の没後から50年にあたる今年、渋沢敬三記念事業としてシンポジウム・講演会・企画展などの多くの渋沢敬三記念事業をセンターが軸となって企画している。

＊ 渋沢記念事業公式サイト「渋沢敬三アーカイブー生涯、著作、資料ー」(<http://shibusawakeizo.jp/>)

企画内容・代表者

1. 渋沢敬三没後50年展示企画「復元 渋沢青淵翁記念室」に関する研究(国文学研究資料館: 青木 睦)
2. 敬三資料の整備と活用: (1) 渋沢史料館所蔵 渋沢敬三関係資料の整理・目録化 (2) 渋沢敬三展の開催(渋沢史料館: 井上 潤)
3. 「渋沢栄一伝記資料編纂」と「日本実業史博物館設立計画」の進行過程に於ける渋沢敬三と竜門社との相互関係の様相に関する調査(大谷明史)
4. 敬三関連情報へのアクセス向上: (1) 渋沢敬三総合年譜の作成 (2) 収集資料群の把握 (3) 敬三紹介サイトの作成(実業史研究情報センター: 小出いずみ)
5. 「渋沢敬三没後50周年記念」を冠した特別企画展示の実施(国立民族学博物館: 近藤雅樹)
6. 渋沢敬三の「実業」「実学」思想の研究: 概念の拡がりや研究援助・社会貢献の思想に焦点をあてて(東京大学: 佐藤健二)
7. 国際シンポジウム・仮称『渋沢敬三の資料学』準備及び開催(神奈川大学日本常民文化研究所: 佐野賢治)
8. 実業家・財界人としての渋沢敬三の研究(東京大学: 武田晴人)
9. 渋沢敬三及びアチック関係映像資料のデータベース化とその活用、公開(宮本記念財団: 宮本瑞夫)
10. 渋沢敬三研究(由井常彦)









玉川碑の解説

狛江市中和泉四丁目一四番にある万葉歌碑（玉川碑）は、大正一三年に再建されたもので、当初は市内猪方四丁目辺りの多摩川のほとりに建てられた。

最初の歌碑は、文化二年（一八〇五）※に、猪方村（現在の狛江市猪方）の名主重八宅に身を寄せ、習字の手習師匠をしていた元土浦藩士である平井有三が、石碑を建てることを思い立ち、江戸の知り合いなどに寄付をつのり、猪方村内の多摩川堤防のほとりに歌碑を建立した。

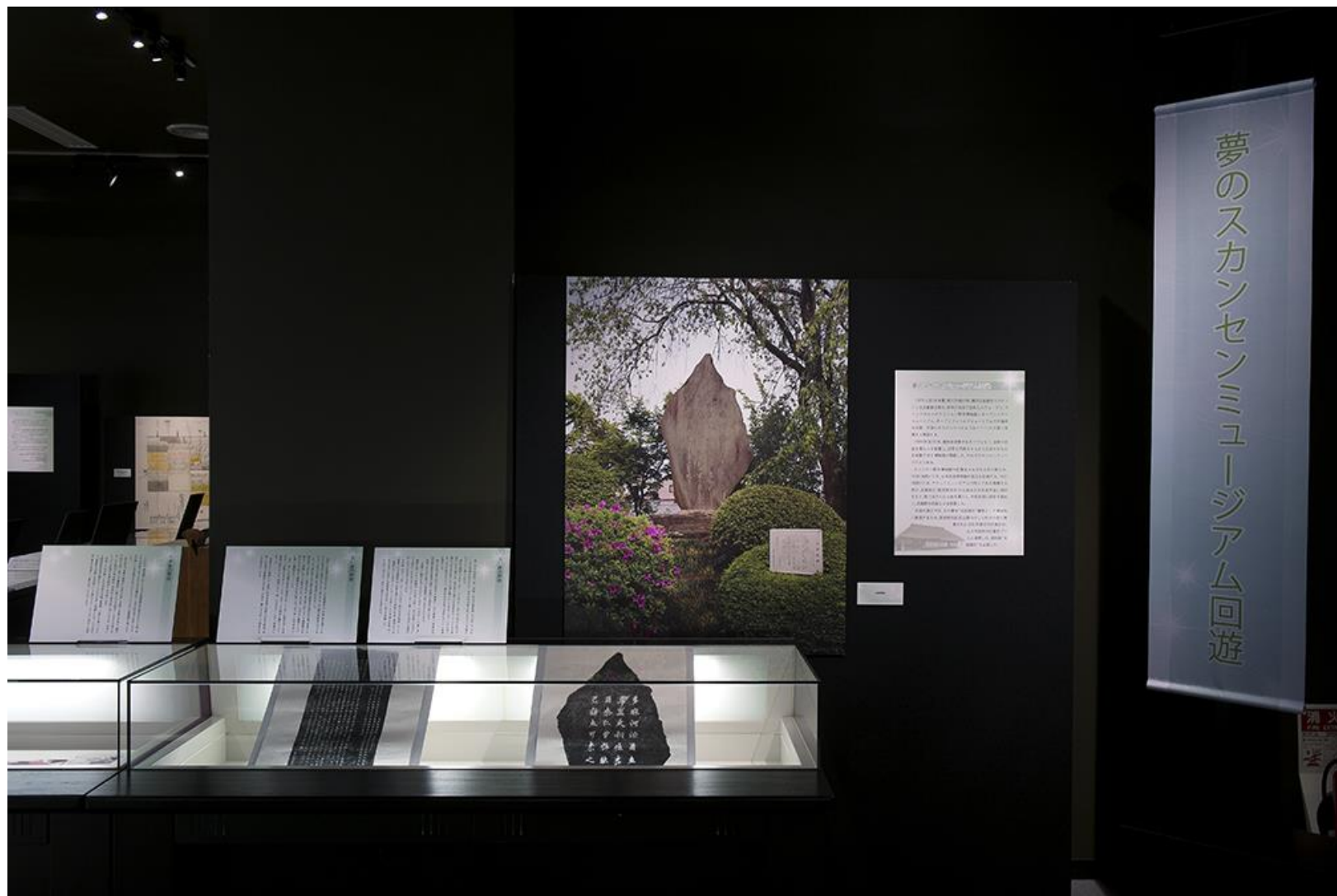
碑文は白河藩主松平定信が万葉集の一首を揮毫し、碑陰記は白河藩の儒者広瀬典の撰文、同藩の大塚桂の書になる。

歌碑に刻まれた歌は、万葉集巻十四にあるものである。

「多摩川に曝す手作りさらさらに何そこの児のここだ愛しき」
最初に建てられた歌碑は、その後、文政一二年の多摩川の洪水により流失し、行方知れずとなってしまう、建てられた場所や歌碑の形、大きさは不明のままである。

その後、大正一一年（一九二二）に至り、松平定信を敬慕していた三重県人の羽場順承は、旧桑名藩士から歌碑の拓本（復刻）を入手し、歌碑がすでに流失していることを知り、その再建を計画、同じく松平定信に私淑する実業家の渋沢栄一に協力を依頼した。

※近年では、文化一四年の建立とする説もある。



『子どもたちのための 渋沢栄一解説』
産業の発展につなげた「渋沢栄一」



栄一、パリに行く
今から140年以上前のことです。日本でまだ力をきたいた機がまちを歩いていけころ、日本人の代表の一行が、フランスで行われたパリ万国博覧会へ行きました。
その中に渋沢栄一という人物がいました。立派なレンガづくりの建物がならび、鉄道が走っているパリのまちを見て、栄一は目を丸くしました。



栄えてみよう
栄一は、西洋の文化を見て、どのようなことを学ばれたのでしょうか。

栄一のおどろき
栄一たちは、パリ万国博覧会にきて日本の産業が文化を展示したことに大いに驚きました。
一方、他の国々は、新しい機械、大規模な建物などによって、日本の展示場を圧倒していました。
パリ万国博覧会にきて、栄一は、日本の産業の発展を学んだ。栄一は、日本の産業の第一歩を歩きました。その中には、第一歩を踏み出す、勇気をもっていました。

栄一のおどろき
栄一は、他の国々の産業を見て、日本の産業の発展を学ぶことができました。



栄一は、日本の産業の発展を学ぶことができました。

栄一は、日本の産業の発展を学ぶことができました。



栄一は、日本の産業の発展を学ぶことができました。



栄一は、日本の産業の発展を学ぶことができました。



栄一は、日本の産業の発展を学ぶことができました。



栄一は、日本の産業の発展を学ぶことができました。



栄一は、日本の産業の発展を学ぶことができました。



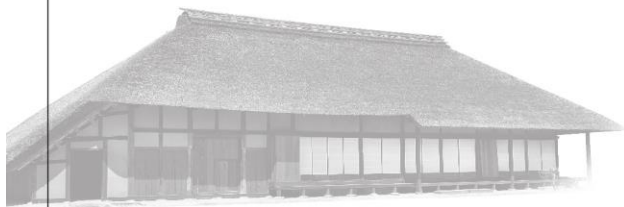
こもれびの里と石井家の古文書と民具

武蔵保谷の民族博物館は、残念ながら一部だけしか実現せずに終息する。その野外博物館への情熱は冷めることなく、大阪府豊中の日本民家集落博物館へと引き継がれる。さらに川崎市立民家園、明治村と着実に増えていった。

その一つにあげられるのが、昭和記念公園内にある「こもれびの里」ともいえる。昭和30年代の武蔵野の農家のくらしを今に再現する博物館である。東京都狛江市の石井家から移築された住宅を展示し、「昭和・武蔵野・農業」をテーマに、田畑を耕して年中行事を再現し、現代を生きる私たちに、当時の暮らしの知恵を教えている。

「こもれびの里」の中核をなす施設は、東京都狛江市から移築された旧石井家住宅である。石井家は、江戸時代の18世紀後半から幕末まで、和泉村(現:東京都狛江市)の旗本松下領の名主を務めた家である。

このコーナーでは、渋沢栄一と深く関わる玉川碑と石井家当主扇吉との縁^{えにし}をひもときながら、古文書の中の村の暮らしをお読みいただく。





こもれびの里と石井家の古文書と民衆

武蔵保名の民族博物館は、残念ながら一部だけしか実現せずには終息する。その野外博物館への情熱は冷めることなく、大版井豊中の日本民家集落博物館へと引き継がれる。さらに川崎市立民家園、明治村と落實に増えていった。

その一つにあげられるのが、昭和記念公園内にある「こもれびの里」ともいえる、昭和30年代の武蔵野の農家のくらしを今に再現する博物館である。東京都江川市の石井家から移築された民宅を展示し、「昭和・武蔵野・農業」をテーマに、田舎を耕して年々行事を再現し、現代を生きる私たちにとっての暮らしの原点を教える。

「こもれびの家」の中核をなす施設は、東京都狛江市から移築された旧石井家住宅である。石井家は、江戸時代の中頃に後醍醐天皇から幕末まで、和泉村(現東京都狛江市)の旗本松平家の家臣を務めた家である。

このコーナーでは、読者衆と深く関わる玉川碑と若井家当主間各との縁をひもときながら、古文書の中の村の暮らしをお楽しみいただく。



会 席 臨

《中国思想史》,《中国思想史》,第1卷,第1页。

1997, 1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2044, 2045, 2046, 2047, 2048, 2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2058, 2059, 2060, 2061, 2062, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2068, 2069, 2070, 2071, 2072, 2073, 2074, 2075, 2076, 2077, 2078, 2079, 2080, 2081, 2082, 2083, 2084, 2085, 2086, 2087, 2088, 2089, 2090, 2091, 2092, 2093, 2094, 2095, 2096, 2097, 2098, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2104, 2105, 2106, 2107, 2108, 2109, 2110, 2111, 2112, 2113, 2114, 2115, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2124, 2125, 2126, 2127, 2128, 2129, 2130, 2131, 2132, 2133, 2134, 2135, 2136, 2137, 2138, 2139, 2140, 2141, 2142, 2143, 2144, 2145, 2146, 2147, 2148, 2149, 2150, 2151, 2152, 2153, 2154, 2155, 2156, 2157, 2158, 2159, 2160, 2161, 2162, 2163, 2164, 2165, 2166, 2167, 2168, 2169, 2170, 2171, 2172, 2173, 2174, 2175, 2176, 2177, 2178, 2179, 2180, 2181, 2182, 2183, 2184, 2185, 2186, 2187, 2188, 2189, 2190, 2191, 2192, 2193, 2194, 2195, 2196, 2197, 2198, 2199, 2200, 2201, 2202, 2203, 2204, 2205, 2206, 2207, 2208, 2209, 2210, 2211, 2212, 2213, 2214, 2215, 2216, 2217, 2218, 2219, 2220, 2221, 2222, 2223, 2224, 2225, 2226, 2227, 2228, 2229, 2230, 2231, 2232, 2233, 2234, 2235, 2236, 2237, 2238, 2239, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245, 2246, 2247, 2248, 2249, 2250, 2251, 2252, 2253, 2254, 2255, 2256, 2257, 2258, 2259, 2260, 2261, 2262, 2263, 2264, 2265, 2266, 2267, 2268, 2269, 2270, 2271, 2272, 2273, 2274, 2275, 2276, 2277, 2278, 2279, 2280, 2281, 2282, 2283, 2284, 2285, 2286, 2287, 2288, 2289, 2290, 2291, 2292, 2293, 2294, 2295, 2296, 2297, 2298, 2299, 2300, 2301, 2302, 2303, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2312, 2313, 2314, 2315, 2316, 2317, 2318, 2319, 2320, 2321, 2322, 2323, 2324, 2325, 2326, 2327, 2328, 2329, 2330, 2331, 2332, 2333, 2334, 2335, 2336, 2337, 2338, 2339, 2340, 2341, 2342, 2343, 2344, 2345, 2346, 2347, 2348, 2349, 2350, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2366, 2367, 2368, 2369, 2370, 2371, 2372, 2373, 2374, 2375, 2376, 2377, 2378, 2379, 2380, 2381, 2382, 2383, 2384, 2385, 2386, 2387, 2388, 2389, 2390, 2391, 2392, 2393, 2394, 2395, 2396, 2397, 2398, 2399, 2400, 2401, 2402, 2403, 2404, 2405, 2406, 2407, 2408, 2409, 2410, 2411, 2412, 2413, 2414, 2415, 2416, 2417, 2418, 2419, 2420, 2421, 2422, 2423, 2424, 2425, 2426, 2427, 2428, 2429, 2430, 2431, 2432, 2433, 2434, 2435, 2436, 2437, 2438, 2439, 2440, 2441, 2442, 2443, 2444, 2445, 2446, 2447, 2448, 2449, 2450, 2451, 2452, 2453, 2454, 2455, 2456, 2457, 2458, 2459, 2460, 2461, 2462, 2463, 2464, 2465, 2466, 2467, 2468, 2469, 2470, 2471, 2472, 2473, 2474, 2475, 2476, 2477, 2478, 2479, 2480, 2481, 2482, 2483, 2484, 2485, 2486, 2487, 2488, 2489, 2490, 2491, 2492, 2493, 2494, 2495, 2496, 2497, 2498, 2499, 2500, 2501, 2502, 2503, 2504, 2505, 2506, 2507, 2508, 2509, 2510, 2511, 2512, 2513, 2514, 2515, 2516, 2517, 2518, 2519, 2520, 2521, 2522, 2523, 2524, 2525, 2526, 2527, 2528, 2529, 2530, 2531, 2532, 2533, 2534, 2535, 2536, 2537, 2538, 2539, 2540, 2541, 2542, 2543, 2544, 2545, 2546, 2547, 2548, 2549, 2550, 2551, 2552, 2553, 2554, 2555, 2556, 2557, 2558, 2559, 2560, 2561, 2562, 2563, 2564, 2565, 2566, 2567, 2568, 2569, 2570, 2571, 2572, 2573, 2574, 2575, 2576, 2577, 2578, 2579, 2580, 2581, 2582, 2583, 2584, 2585, 2586, 2587, 2588, 2589, 2590, 2591, 2592, 2593, 2594, 2595, 2596, 2597, 2598, 2599, 2600, 2601, 2602, 2603, 2604, 2605, 2606, 2607, 2608, 2609, 2610, 2611, 2612, 2613, 2614, 2615, 2616, 2617, 2618, 2619, 2620, 2621, 2622, 2623, 2624, 2625, 2626, 2627, 2628, 2629, 2630, 2631, 2632, 2633, 2634, 2635, 2636, 2637, 2638, 2639, 2640, 2641, 2642, 2643, 2644, 2645, 2646, 2647, 2648, 2649, 2650, 2651, 2652, 2653, 2654, 2655, 2656, 2657, 2658, 2659, 2660, 2661, 2662, 2663, 2664, 2665, 2666, 2667, 2668, 2669, 2670, 2671, 2672, 2673, 2674, 2675, 2676, 2677, 2678, 26



本・資料を探す

図書館を利用する
電子資料館を利用する
学術情報リポジトリ
オープンデータセット
所蔵資料紹介

図書館カレンダー

■ 休館日、■ 土曜開館日 (利用
案内)

11月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

休館日: 2~4、6、7、9、11、13、
14、16、18、20、21、23、25、27、
28、30日

事前予約日: 1、5、8、10、12、15、
17、19、22、24、26、29日

12月

近代文献を探す

- 近代書誌・近代画像データベース
- 明治期出版広告データベース

歴史資料を探す

- マリオ・マレガ資料データベース
- 史料情報共有化データベース
- 収蔵歴史アーカイブズデータベース
- 日本実業史博物館コレクションデータ
ベース
- 伊豆垂山江川家文書データベース
- 史料所在情報データベース

全文テキストの検索

- 古典選集本文データベース
- 日本古典文学大系本文データベース
- 喃本大系本文データベース

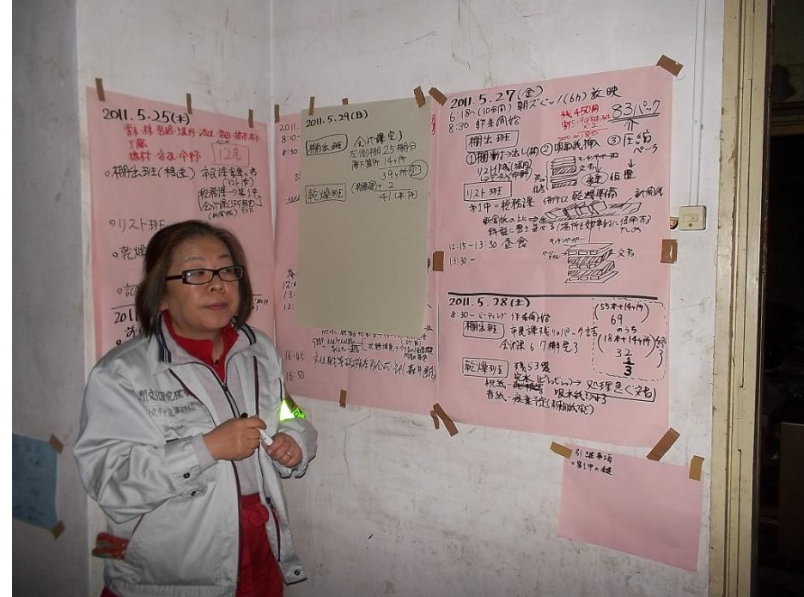
研究情報を調べる

- 歴史人物画像データベース
- 連歌・演能・雅楽データベース
- 新奈良絵本データベース
- 古事類苑データベース
- 古典学統合データベース (地下家伝・
芳賀人名辞典)
- 古筆切所収情報データベース
- 館蔵社寺明細帳データベース
- 増田太次郎広告コレクションデータ
ベース

発表者: 青木睦の紹介



埼玉県草加市民間史料の救助
1992年12月17日放火され、29日
に緊急対応として凍結した



震災から80日目の2011年5月29日
被災地における総括活動の様子



国文学研究資料館での研究 ⁸⁶

保存計画における具体的保存対策フローチャート

Preservation plan



[出典]青木 睦 「保存計画の立案」(1995年

金山正子 「保存対策フローチャート」を元に改訂(元興寺文化財研究所)

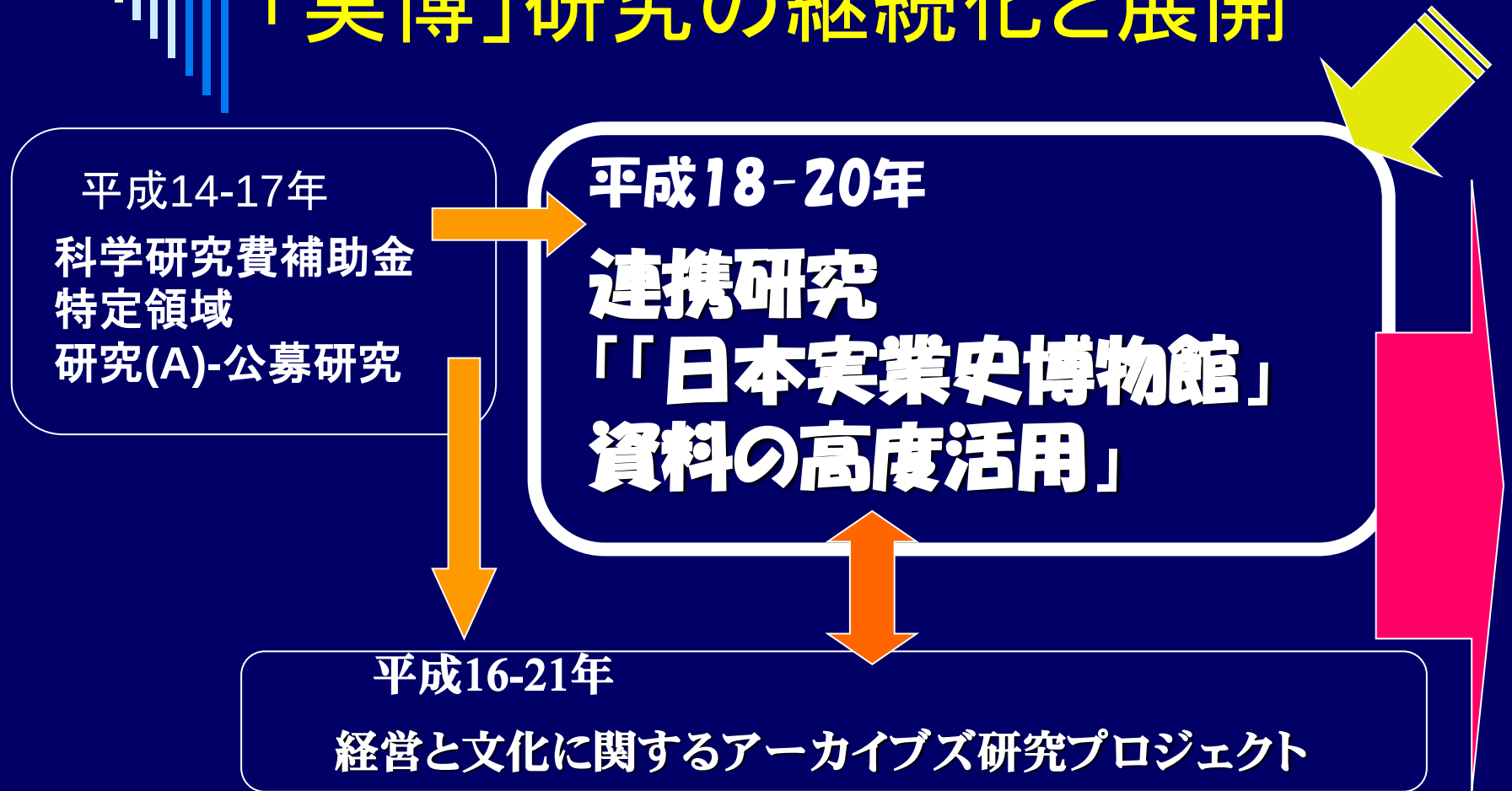


人間文化研究機構総合推進事業 連携研究
-文化資源の高度活用-

「日本実業史博物館」 資料の高度活用

研究代表 青木 睦 090209
国文学研究資料館

「実博」研究の継続化と展開



日本実業史博物館資料の 調査・研究の概要

- 本研究は、国文学研究資料館が所蔵する、渋沢敬三が構想した「日本実業史博物館」のために収集した19,526件 37,438点を超えるコレクションを対象とし、資料群形成過程及び資料群構造・管理についてアーカイブズ学的分析を行う。コレクション意図と形成過程を探求・分析する基礎的研究により、実業家渋沢敬三の経営と文化に関する考え方を明らかにしていくことも課題である。

渋沢財閥・渋沢青淵記念財団竜門社との関わりについても検討の対象である。

渋沢敬三とは

渋沢敬三は、政財界で活躍すると同時に、日本の民俗学・民族学を発展させ、文部省史料館（現国文学研究資料館）、国立民族学博物館などの設立を提唱し、膨大な資料を寄贈し、その基礎を築いた人物でもある。

「大正・昭和時代の実業家、文化功労者。渋沢栄一の嫡孫で、その後継者

明治29年(1896)8月25日、篤二・敦子の長男として東京深川邸に生まれる。大正10年(1921)東京帝国大学経済学部を卒業後、横浜正金銀行に入行。14年第一銀行に入り取締役・副頭取を歴任。昭和17年、日本銀行副総裁に転出し、19年(1944)総裁に昇任。第二次世界大戦後、20年(1945)10月幣原内閣の大蔵大臣となり、戦後財政の処理にあたる。28年(1953)国際電信電話株式会社の初代社長に就任、その後も国際商業会議所国内委員会会長・金融制度調査会会長などの要職をつとめ、わが国経済史のために尽くすこと少なくなかった。

彼はまた学問・文化の発展にも大きな貢献をした。戦前アチック・ミュージアム(のち日本常民文化研究所と改称)を主宰し、若い研究者とともに民具の蒐集、民俗学および日本水産史の研究を行い、その成果を数十冊の報告書として刊行した。それ以外でも彼が援助を与えた研究や文化事業は数多かった。昭和38年(1963)10月25日、67歳をもって死去した。」(山口和雄執筆『国史大辞典』「渋沢敬三」、吉川弘文館、1979年、1版) 1942年アチックは日本常民文化研究所と改称して活動を継続したが、1982年に神奈川大学の付属研究所となった。

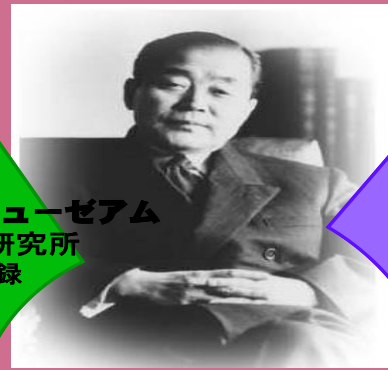
アチック・ミュージアム
日本常民文化研究所
常民生活記録
民俗学
民族学

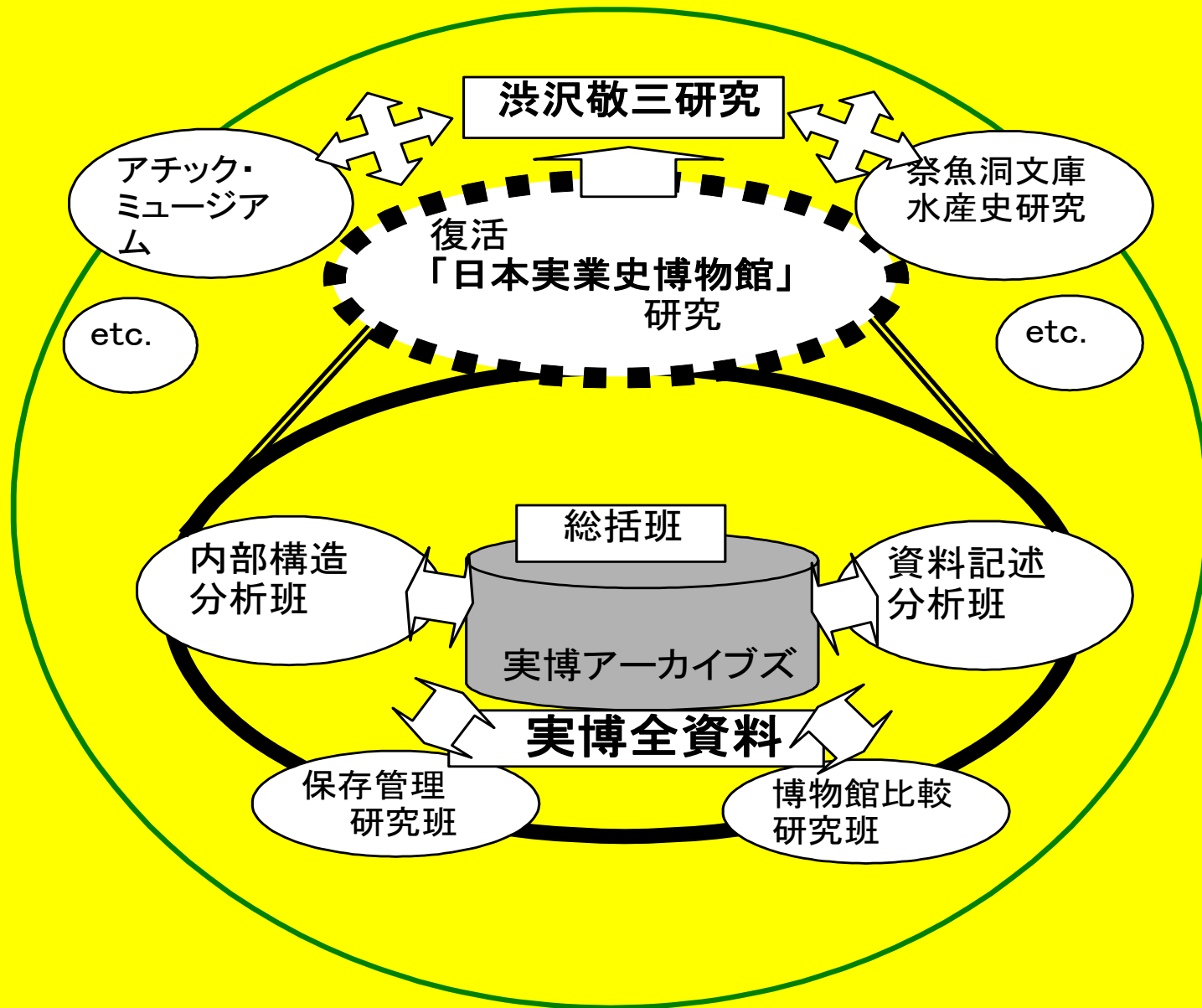
その他の研究

漁業史研究
祭魚洞文庫
内浦漁民史料

日本実業史博物館

政財界人
実業家
大蔵大臣
日銀総裁
第一銀行副頭取
渋沢同族会社など
役員





「日本実業史博物館」 -なぜ幻の博物館なのか-



日本実業史博物館完成予想図

、渋沢栄一が1931(昭和6)年11月11日に死去した後、遺言によって渋沢記念財団竜門社が渋沢栄一邸の寄贈を受けた(現在の飛鳥山公園内)。約8470坪ほどの敷地及び建物である。

1937(昭和12)年5月、(財)竜門社は、旧渋沢栄一邸の利用に関する委員会を設置し、渋沢子爵家を栄一より継承した嫡孫の渋沢敬三ら9名に委員を委嘱する(当時、敬三は(財)竜門社の評議員)。そして、この委員会は答申を提出し、同年7月15日に財団の理事会・評議員会において、「渋沢青淵翁記念実業博物館」の建設が決議される。この決議された計画案は、渋沢敬三の「一つの提案」をベースにしたものであった。

渋沢敬三による「一つの提案」で示された「近世経済史博物館」の設立が構想された。その計画は(財)竜門社の事業として動き出し、1939(昭和14)年5月13日、渋沢栄一生誕百年記念祭に際し、「渋沢青淵翁記念実業博物館」建設地鎮祭を挙げる。この建設は、国家総動員法に基づく戦時経済統制の強まりによる建築資材の入手困難等により、竣工には至らなかった。その後も「日本実業史博物館」の名称でもって、その設立に向け、資料の収集および展示・收藏のための施設の設置場所の模索が続けられが、

まさに「幻の博物館」となった。

「記念室については祭魚洞先生(渋沢敬三)の提案もあって、折角お爺さんの為に財界の人達が御考え下さっていることは大変有難いことであるが、それならばそれを敷衍した経済史的な博物館を、渋沢家も御手伝してつくりたいことを申しのべ、ここに祭魚洞先生に資料の蒐集・保存・管理及博物館計画までの一任されたのであった。」(遠藤武

「祭魚洞先生と民具—日本実業史博物館始末期—」)

1951(昭和26)年5月、文部省史料館(現:国文学研究資料館)が設置され、その6月に「日本実業史博物館」資料は渋沢記念財団竜門社から寄託を受け、1962(昭和37)年に同財団および渋沢敬三氏(以下、人名への敬称を略す)より寄贈された。

「日本実業史博物館」 の構想



1937(昭和12)年渋沢敬三執筆の「一つの提案」の草稿は、便箋26枚に、博物館の設立目的・組織・展示構成・建設規模・予算・資料収集方法・展示原則・展示案が認められている(当館7点、渋沢史料館1点所蔵)。やがて博物館計画は、この「一つの提案」におおむね沿って進められる。

渋沢敬三は、この「一つの提案」のなかで、「近世経済史博物館」という名称を使用しながら博物館設立を構想し、「**渋沢青淵翁記念室**」「**近世経済史展示室**」「**肖像室**」の設置を予定した。特に、江戸時代に焦点を当てた「**近世経済史展示室**」を重視し、江戸時代の文化・文政期から明治期の日本を「経済史上最モ画期的変化ノアリシ」時代として強調し、当該期の経済変遷や発展過程を具体的に表す資料の収集に取り組む指針を示している。

具体的にどのような構想で収集準備を進めていたかの内容が「一つの提案」の中の「展観予想」により窺うことができる。その項目を示すと、

- (1) 原始産業①農業②林業③牧畜④水産⑤鉱産
 - (2) 基礎産業①軽工業(製糸・製紙等)②化学工業(肥料・醸造等)
 - ③重工業(製鉄・造船)④建築工業
 - (3) 補助産業①電気事業②運搬業:陸上運輸③商業:銀行・金融業
 - ④印刷業・広告業・出版業、
 - (4) 上記以外の実物・写真・模型
 - (5) 図表①一般:年表的のもの②財政③土地④人口表⑤職業別人口及戸数⑥資本⑦労働⑧生産高発展表⑨物価:主要物価及指数⑩貿易⑪株価⑫貨幣流通高⑬為替相場⑭公社債高⑮其他商業及交通等各種統計又は図表であり
- 5部門に分かれている。

幻の博物館の 「紙」展示の目的

今回の展示は、具体的にどのような構想で収集準備を進めていたかを見直し、渋沢の「展観予想」による、収集コレクションの復元を試み、渋沢敬三が追い求めた「日本実業史博物館」における「製紙」部門の実像に迫ることを目的としている。

「一つの提案」の中における紙・製紙産業の位置は、「展観プラン補足修正意見」(2)基礎産業①軽工業」として「製紙ニツイテハ土佐、大洲、津和野、美濃等ヲ例示シ、王子製紙をヲモ特示ス」とあり、和紙関係を「消滅又ハ衰亡ニ瀕セル産業モ当時トシテ重要ナリシモノハ忘レヌコト」としている。

さらに、「製紙 和紙ノ抄紙ヨリ現代ノパルプ抄紙ニ至ル変遷ヲ示ス。現代製紙ハ王子製紙ニヨリ例示スル」と近代製紙の発展の経緯を渋沢栄一創業の王子製紙を基軸にすえることとしている。

この構想案をもとに、3部構成とした。
展示資料としての到達度をみても目的の一つである。

第1部 紙・紙の世界

紙・紙の世界では、現在失われつつある紙文化の世界を再現し、かつて生活を彩った紙製品の数々を紹介する。

第2部 実業史のなかの紙・製紙産業

渋沢栄一が関わった産業部門のなかでの紙・製紙産業を、実業史に関する博物館として具体的にどのように展示しようとしたのか、遺されたコレクションから検証していく。

第3部 書く・描く紙

戦前期に収集された紙のうち、生漉紙と加工紙について、その素材の分析をふまえ、様々な紙の姿を紹介する。

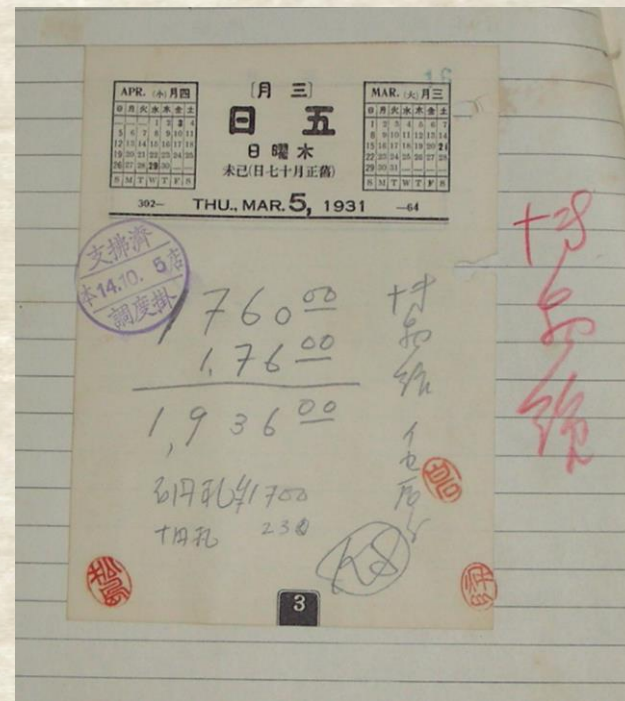
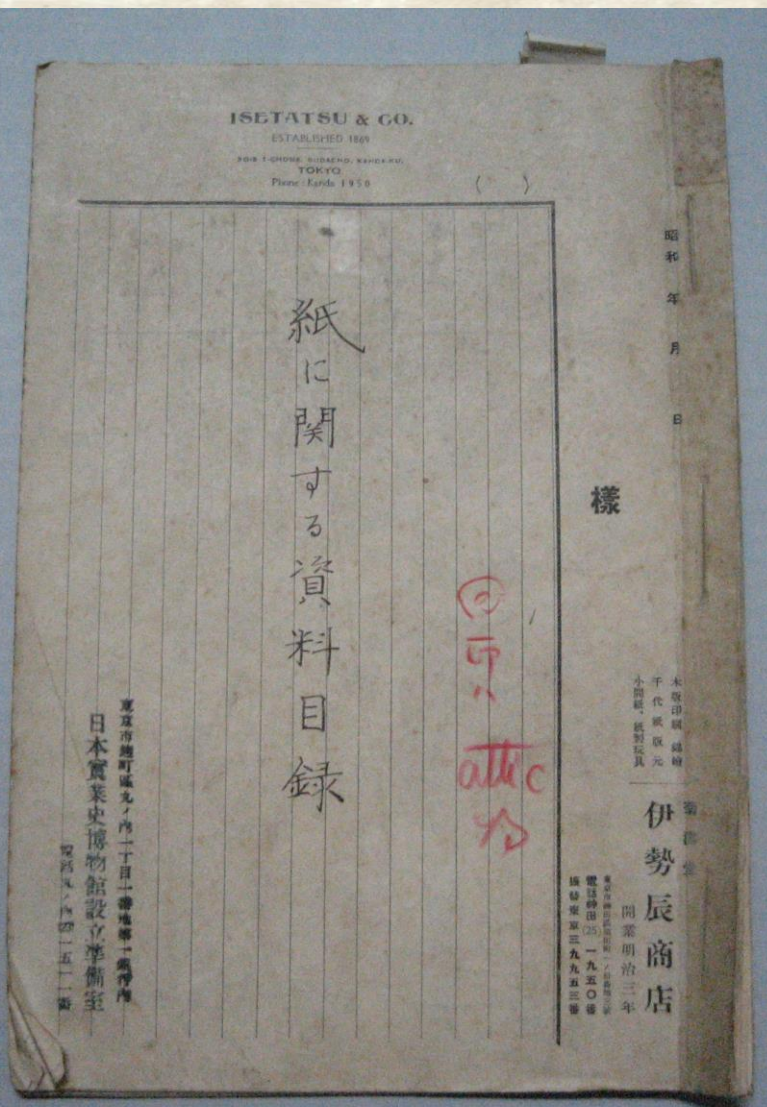
準備室アーカイブズがあったからこそ!!!

■ アーカイブズ学的手法による検討

- ・コレクションの形成過程を明らかにする収集日誌および領収書・カード・台帳・目録の分析とモノ資料との照合



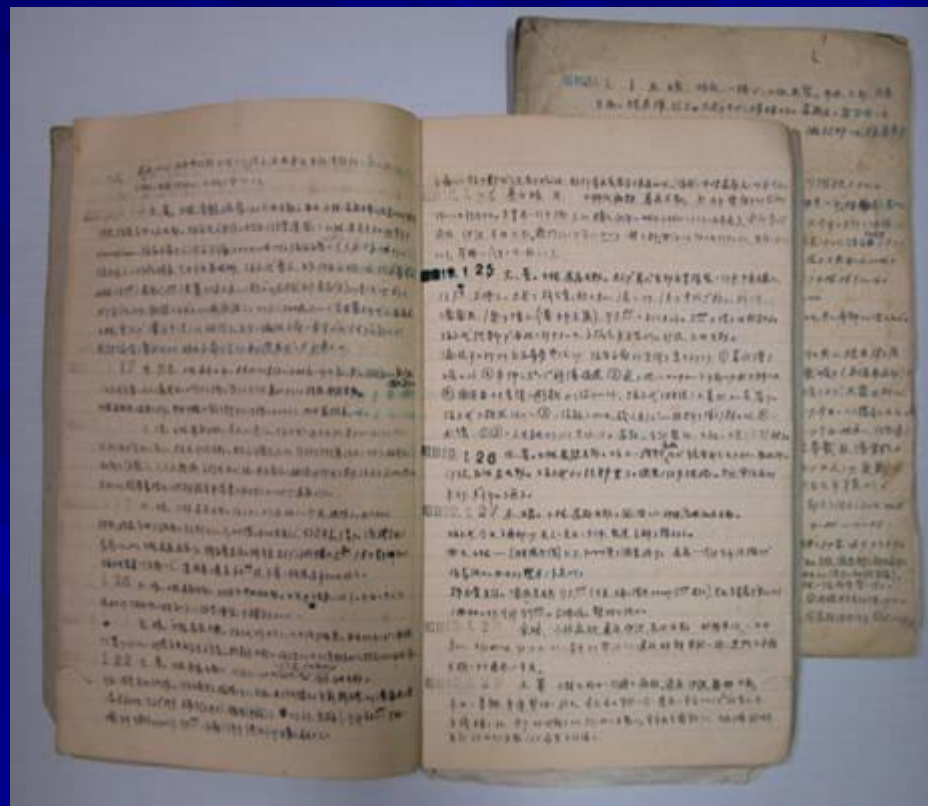
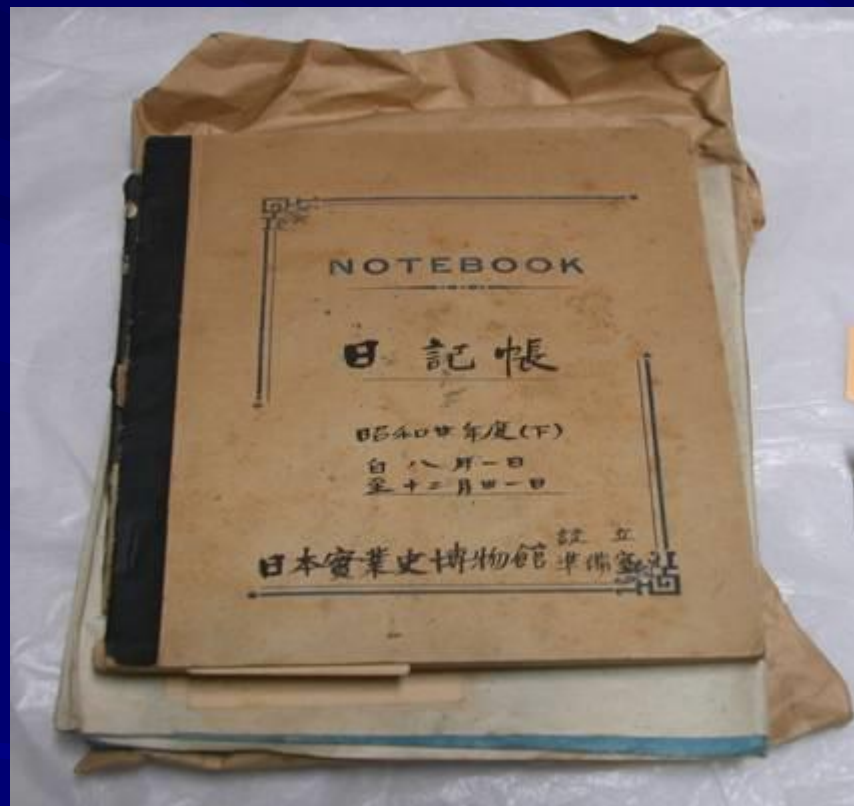
伊勢辰コレクション



コレクションの資料群構造



1-博物館準備室アーカイブズ



2-絵画 産業経済に関する錦絵



3-写真 産業経済の立役者たち



4-番付 社会現象の批評

